

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

## 多様かつ衡平な議論を

-Next-generation meetings must be diverse and inclusive-

### 【研究概要】

横浜国立大学の森章准教授は次世代の国際会議の在り方についての提言を発表しました。SARS-CoV-2 ウィルスによる感染症（COVID-19）により、気候変動枠組条約締約国会議（UNFCCC COP）をはじめとする重要な会議が延期されています。国際的な議論を進めるにおいても、今後の新たな標準としてオンライン国際会議が考えられます。そのような機会でも、多様性に注視し衡平性を守ることの重要性を強調しました。本研究成果は、国際科学雑誌「Nature Climate Change」（6月1日付）に掲載されました。

### 〈発表雑誌〉

雑誌名 : *Nature Climate Change*, 2020年6月1日

オンライン版 doi:10.1038/s41558-020-0795-z

論文題目 : Next-generation meetings must be diverse and inclusive

論文著者 : Akira S. Mori

### 【本研究のポイント】

- ・オンラインで国際条約締約国会議を行うなど、社会の変革が期待されている。
- ・文化の違いなどをより尊重した、注意深い議論の進行が肝要である。

### 【社会的な背景】

2020年は、環境問題に関わるさまざまな国際会議が予定されていたために、国連のスーパーイヤー（super year）であると称されてきました。生物多様性条約における今後10年間の目標策定、国際自然保護連合（IUCN）による自然に基づく社会環境問題の解決策（Nature-based solutions）の策定、気候変動枠組条約下でのさまざまな議論、そのほかにも重要な国際会議が2020年に予定されていたことから、環境問題解決の契機となる年であると期待されてきました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、条約締約国会議等の国際会議が延期されています。その中には、当初2020年秋に予定されていた気候変動枠組条約の会議（気候サミット）も含まれます。気候変動などの環境問題は日々深刻化しており、国際会議を延期すればするほどに問題解決が遠のくことが危惧されています。それゆえに気候サミットを延期せずに、バーチャル（オンライン）で行うべきとの意見があります。

### 【今後の展開】

オンライン国際会議には多くのメリットがあります。時間や費用の節約、炭素フットプリントの軽減などが挙げられます。一方で、考えるべき問題もあります。たとえば、国際会議の場合、国地域間の時差も問題になります。しかし、より注視すべきことは、「多様性」や「衡平性」に配慮し、包括的な議論を進めることです。多様な国地域から参加し、地球全体としての問題解決を探る場であるからこそ、代表的な国際会議としての気候サミットでは、言語バリア、文化間のコミュニケーション方法の違いなどに十分に配慮した、不平等ではない議論の進行が求められます。本稿では、今後の次世代の国際会議の在り方について意見を述べました。

本件に関するお問い合わせ先

横浜国立大学大学院環境情報研究院 森 章／高津

電話 045-339-4370

E:mail [mori-akira-gc@ynu.ac.jp](mailto:mori-akira-gc@ynu.ac.jp)／[takatsu-miho-xr@ynu.ac.jp](mailto:takatsu-miho-xr@ynu.ac.jp)